

ビハラー活動の基本姿勢—愛の継承

寄稿

鍋島 直樹 (龍谷大学文学部教授)

ビハラー活動を支えている全ての方々に感謝を込めて、この文を贈りたい。

ビハラー活動は、長岡西病院(新潟県長岡市)、あそかビハラー病院(京都府城陽市)、福岡聖恵病院(福岡県土佐市)などの理念が示すように、仏に願われて「ぬくもり」と生かされて生きる「おかげさま」の心で、仏教・医療・福祉の多職種がチームで連携する活動である。支援を求めている人々を孤独の中に置き去りにしないように耳を

生まれ、その人らしく生きられるように、その人が大切にしてきたものを尊重し、チームで支え続けた。大嶋医師は、こう示した。《哲学者の先生から人間は過去の自分があって、そこから繋がる未来を想定することで、今を仮定している」と教えていただいたことがありま

しまします。それは、ご家族もいっしょです。愛する人が死んでしまうのに、何にもできることがない。だったら今の苦しい時間は、何のためなのだと思うでしょう。だからこそ、私たちのほうで患者さんのニーズを汲み取り、患者さん・ご家族と一緒に、近未来に目標点を作ることができた

い人生であっても、人生最後に私が私であった良かった、生まれてきて良かったと思える瞬間があれば、と願いつながり患者さんと共に過ごさせていたたくことです》(あそかビハラー病院編『お坊さんのいる病院』40頁、自照社出版)

傾聴は「支援と挑戦である。くずかごのようにその人の悲しみや苦しみを受け止めるビハラー僧は、その人の問題を一緒に考え、その人の希望に沿うように、諦めずに医療・福祉・仏教のチームで挑戦し続ける。傾聴は「悲しみから生まれる愛の継承」である。寄り添う自身が相手から大切なことを教えていただく。傾聴は学びあうことである。ビハラー僧の心のくずかごは、その方から夢や愛情をいただけて宝石箱になる。その人の物語の宝石は、そばにいた僧侶や医療スタッフの心に輝き続ける。

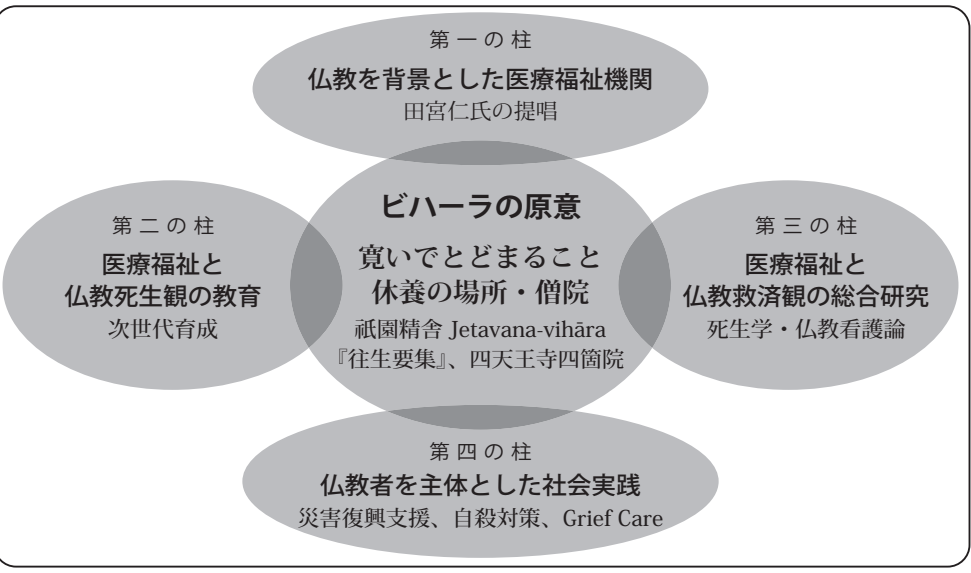
谷山洋三東北大学大学院教授、森田敬史龍谷大教授、打本弘祐龍谷大准教授らの成果によれば、ビハラー活動は四つの柱からなる。(図) 緩和ケア医であそかビハラー病院前院長の大嶋健三郎医師は、患者に笑顔が

「私が私で良かった」 大嶋医師は、ある女性患者からもらった言葉を教えてくれた。「娘さんは、途中から涙を流してしまいました。そして、できることはたくさんある、と伝えました。毎日顔を見せること、笑顔を見せること、涙を見せること、学校の話をすること、お父さんの手を握ってあげること、でもお父さんの時間はわずかしかないから、話したいこと・してあげたいことは、来週でいいと考えずに、必ず今週していいこう、と説明しました。あなたにしかできないことがたくさんある」と。

「大切なことは、僧侶も死の前には無力な存在であり、自らも教えを聞かせていたに過ぎない。立場であることを忘れてはなりません。患者さんも、そしてこの私も、共に阿弥陀さまから願われている存在であること。その御同朋の精神こそが、ビハラー活動の特徴であり、阿弥陀さまという縦軸との関係をもたせていただくことが、僧侶の大

傾聴は「支援と挑戦である。くずかごのようにその人の悲しみや苦しみを受け止めるビハラー僧は、その人の問題を一緒に考え、その人の希望に沿うように、諦めずに医療・福祉・仏教のチームで挑戦し続ける。傾聴は「悲しみから生まれる愛の継承」である。寄り添う自身が相手から大切なことを教えていただく。傾聴は学びあうことである。ビハラー僧の心のくずかごは、その方から夢や愛情をいただけて宝石箱になる。その人の物語の宝石は、そばにいた僧侶や医療スタッフの心に輝き続ける。

傾聴は「支援と挑戦である。くずかごのようにその人の悲しみや苦しみを受け止めるビハラー僧は、その人の問題を一緒に考え、その人の希望に沿うように、諦めずに医療・福祉・仏教のチームで挑戦し続ける。傾聴は「悲しみから生まれる愛の継承」である。寄り添う自身が相手から大切なことを教えていただく。傾聴は学びあうことである。ビハラー僧の心のくずかごは、その方から夢や愛情をいただけて宝石箱になる。その人の物語の宝石は、そばにいた僧侶や医療スタッフの心に輝き続ける。



管理栄養士の細見陽子氏はこう教えてくれた。「緩和ケアでの管理栄養士の目標は、『食べることに意味を与える』ことである。患者は、病気のために今まで好きだった食べ物や食べられなくなる悲しみに直面する。その人に何が一番大切なのか。その日にどうすることが大切なのかを考えて、食事を準備する。」

「大切なことは、僧侶も死の前には無力な存在であり、自らも教えを聞かせていたに過ぎない。立場であることを忘れてはなりません。患者さんも、そしてこの私も、共に阿弥陀さまから願われている存在であること。その御同朋の精神こそが、ビハラー活動の特徴であり、阿弥陀さまという縦軸との関係をもたせていただくことが、僧侶の大

傾聴は「支援と挑戦である。くずかごのようにその人の悲しみや苦しみを受け止めるビハラー僧は、その人の問題を一緒に考え、その人の希望に沿うように、諦めずに医療・福祉・仏教のチームで挑戦し続ける。傾聴は「悲しみから生まれる愛の継承」である。寄り添う自身が相手から大切なことを教えていただく。傾聴は学びあうことである。ビハラー僧の心のくずかごは、その方から夢や愛情をいただけて宝石箱になる。その人の物語の宝石は、そばにいた僧侶や医療スタッフの心に輝き続ける。

傾聴は「支援と挑戦である。くずかごのようにその人の悲しみや苦しみを受け止めるビハラー僧は、その人の問題を一緒に考え、その人の希望に沿うように、諦めずに医療・福祉・仏教のチームで挑戦し続ける。傾聴は「悲しみから生まれる愛の継承」である。寄り添う自身が相手から大切なことを教えていただく。傾聴は学びあうことである。ビハラー僧の心のくずかごは、その方から夢や愛情をいただけて宝石箱になる。その人の物語の宝石は、そばにいた僧侶や医療スタッフの心に輝き続ける。



鍋島直樹 (なべしま・なおき) 龍谷大学文学部教授、文学博士。

Let me do it for love. namo amidabutsu. Naoki Nabeshima



傾聴は「支援と挑戦である。くずかごのようにその人の悲しみや苦しみを受け止めるビハラー僧は、その人の問題を一緒に考え、その人の希望に沿うように、諦めずに医療・福祉・仏教のチームで挑戦し続ける。傾聴は「悲しみから生まれる愛の継承」である。寄り添う自身が相手から大切なことを教えていただく。傾聴は学びあうことである。ビハラー僧の心のくずかごは、その方から夢や愛情をいただけて宝石箱になる。その人の物語の宝石は、そばにいた僧侶や医療スタッフの心に輝き続ける。